

令和 6 年度職員自己評価

今年度も「不適切な保育」について園内研修を続けた。

7 月は昨年度出来なかった「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用して、事前に自分自身の保育について振り返りをした。研修当日は 4~5 人のグループに分かれ、チェックリストの「振り返りシート」に沿って意見を出し合った。

1 月は、12 月に掛札逸美先生の研修を受講した主幹を講師として、途中掛札先生の動画をまじえながら、研修内容や「21 世紀の証拠に基づく子ども育ての本」を参考に勉強会を行った。講師を担った主幹は「子どもの本質を知ることによって保育者自身の気持ちが楽になってくれば…」という思いがあり、日常の保育の中での事例をあげ、わかりやすく子どもの本質や関わり方について話してくれた。グループワークも各クラス又は部署ごとに行い、最後に各クラスでクラス運営等について意思統一をした。

分析

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」については、昨年度不適切保育についての園内研修を行い職員間で意思統一をしたことで、各々ではよい結果が出た。が、振り返りシートに沿ってグループ内で意見交換していくと気付かされることが多くあり、チェックリストを自分だけでなく複数人で振り返ることの大切さを感じたという声が多かった。具体的に片付けや午睡については、対応の難しさを訴える職員もいて全体で意見交換をして今後に繋げた。

勉強会では、子どもの本質を知ることによって、「できる」と思っていた当たり前が当たり前ではなかったと知り、「できない」ことへのジレンマが無くなり、保育者自身が保育に対して気持ちが楽になり、よりよい保育に繋がっていくという意識づけになった。また、「これって不適切？」と疑問に思っていたことへの答えもいくつか見つけることが出来た。最後に勉強会の内容をもとに、クラスごとに自分の保育を振り返り、次にクラスとしての振り返りをし、あと数か月ではあるが何か出来ることはあるか検討し実行することを意思統一できた。が、子どもたちが、日々のルーティーンが身についてしまっている今年度は大きく変えていくのは難しい部分もあるのが現状。

評価

「セルフチェックリスト」による保育の振り返りについては、ほとんどの職員がよい結果が出たので、チェック項目を検討したらどうかという意見も出たが、やはり複数人で振り返ることにより、深掘りされより良い振り返りになったという声が多かった今年度も続けていきたい。そして、類似の関わりが行われていないか自分たちで考えていくことも大切なのではないかな。

勉強会では、子どもの本質を知ることができ、子どもたちとの関わり方を考える良いきっかけとなった。「不適切な保育をしない」というなんとなくネガティブな言葉から、今回の勉強会で「より適切な保育をするには…」と前向きな言葉に代わり職員もプラス思考になった。できることから少しずつ取り組み、保育の質の向上につなげていきたい。